旧約聖書のキリスト

「そこで、ナアマンは下って行き、神の人の言ったとおりに、ヨルダン川に七たび身を浸した。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。」(列王記第二5:14)

新約聖書は基本的教えとして、イエス・キリスト(メシヤ)は旧約聖書をご自分で成就された(律法、預言、目的を成就した)と教えている。新約聖書のヘブル人への手紙の著者は、神は過去には預言者を通して人々に話されたけれども、御子イエスが地上に来られてからはこの主イエスを通してご自分の計画を啓示されたと言っている(ヘブ1:1-2)。主イエスご自身も律法と預言者を成就するために来たと強調された(マタ5:17)。奇蹟的に死から復活された後、主イエスは弟子たちにモーセの律法と預言者と詩篇(ヘブル語旧約聖書の主要な三区分)がご自分の死と復活についてはっきりと預言していたと説明された(ルカ24:25-27, 44-46)。イエス・キリストについての旧約聖書の預言をよりよく理解するためには予型論(預言的象徴)を理解しなければならない。神学(神、神に関する事柄、神と人との関係などについての学問)では「予型(型)」は後に来るもの、後に起こること、あるいは現されるものを示す預言的象徴または実例のことである。

予型論の原理

旧約聖書を注意深く研究すると、象徴(「型(タイプ)」ー《ギ》テュポス)というものがあり、それらはメシヤ(「原型」ー象徴、例証、表現などが指し示す「本物」)が来られることによって成就したことがわかる。つまり旧約聖書には新約聖書のイエス・キリストを何らかのかたちで示す、あるいは予表する人物、事件、事柄などがある。この預言と成就の関係については二つの基本的な原則がある。

(1) 旧約聖書の聖句がキリストを指し示していることを知るためには、人々を霊的に救い、神との関係に回復する神のご計画の歴史にその人物、場所、事件がどのように当てはまるかというところから考え始めなければならない。特に約束のメシヤ(「油そそがれた者」、救い主)としてイエス・キリストが来られることをその聖句がどのように指し示しているかを調べなければならない。

(2) 主イエスが旧約聖書の聖句を成就したのは、通常旧約聖書が示す事件そのものよりももっと霊的に深いレベルでだったことを認めなければならない。実際に元の物語にかかわった人々は自分たちが体験している事柄が神の大計画の一部分であるとか、やがて来られる神の子について預言をしているなどとは全く意識していなかった。たとえばダビデが詩篇22篇を書いたとき、自分の苦しみが十字架の上のキリストの苦しみを象徴したり預言したりしているとは考えていなかったに違いない。もう一つの例として(反抗に対する神のさばきの結果として)神の民が捕えられ、バビロンに追放された(捕虜として移住させられた)ときのことがある。バビロンへ連れて行かれる途中でラマにあるラケル(イスラエルつまりヤコブの妻の一人、したがってイスラエル民族の重要な先祖の一人)の墓の前を通り過ぎた人々は、自分たちの苦しい情況を悲しんで激しく泣いた(エレ31:15)。新約聖書ではマタイがこの文章はベツレヘムで二歳以下の男の子がみな殺されるというこの地域の人々の悲しみを預言したものだったと明らかにしている(マタ2:18)。この事件はヘロデ王が赤子の主イエスを殺そうとして行ったことである。旧約聖書の人物や事件の象徴や預言的意味の多くは、新約聖書が主イエスについて明らかにしたことと比較してみたときに初めて理解することができる(→「キリストによって成就した旧約聖書の預言」の表 p.1029)。

預言の型の分類

キリストがやがて来られることを預言的に指し示している旧約聖書の記事には、少なくとも4種類の異なった形式がある。

(1) 新約聖書にしばしば引用されている聖句　旧約聖書のある文は新約聖書の中でキリストを預言しているとして引用されているのではっきりしている。たとえばマタイはイザヤ書７章14節を引用して旧約聖書がキリストの処女降誕を預言していたことを証明し(マタ1:23)、ミカ書５章２節を用いて主イエスがベツレヘムに生れることを証明している(マタ2:6)。マルコはキリストの先駆者(先触れをするために派遣されるメッセンジャー)としてバプテスマのヨハネが来ること(マコ1:2-3)がイザヤ(イザ40:3)とマラキ(マラ3:1)によって預言されていたと示している。ゼカリヤはしゅろの日曜日に主イエスがエルサレムに来られる様子を予告していた(ゼカ9:9, ⇒マタ21:1-5, ヨハ12:14-15)。詩篇22篇18節に描かれているダビデの体験は十字架の下で兵士たちが主イエスの衣服を分けるのを予想しており(ヨハ19:23-24)、詩篇16篇8－11節にあるダビデのことばは主イエスの復活の明らかな予言として解釈されている(使2:25-32, 13:35-37)。ヘブル人への手紙の著者は祭司メルキゼデク(⇒創14:18-20, 詩110:4)が永遠の大祭司であるキリストの預言的象徴であると主張している。これ以外にも多くの聖句を挙げることは可能である。

(2) 新約聖書の著者がしばしば指し示す事柄　キリストが来られることとその働きが旧約聖書の中で暗示されている例は、実際にそれを示す聖句が引用されてはいないけれども、人物や事件や事柄がキリストを預言するものとして扱われている部分である。たとえば聖書の最初の預言的なことばの中で(創3:15)、神は女の子孫(処女から生れるキリスト)がへび(サタン)の子孫とその働きを滅ぼすことを約束しておられる。パウロは神の律法を守ることができない人々を救い出すためにキリストは女から生れたと言っているけれども(ガラ4:4-5, ⇒ロマ16:20)、この部分を念頭においていたと思われる。使徒ヨハネも神の子が来たのは「悪魔のしわざを打ちこわすためです」と言っている(Ⅰヨハ3:8)。バプテスマのヨハネが主イエスを「世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハ1:29, 36)と言ったことは、レビ記16章とイザヤ書53章7節を指し示している。またパウロが主イエスを「私たちの過越の小羊」(Ⅰコリ5:7)と言ったことは、ユダヤ人の過越の祭りでささげられる中心的いけにえである過越の子羊が、人々のためにキリストが死なれることを預言的に描いていたことを示している(出12:1-14)。イスラエルが荒野で不平を言ったときに神ののろいを止めるためにモーセが銅の蛇を作ったことは(民21:4-9)、主イエスご自身も罪ののろいを止めるために十字架にかけられることを預言していると言われた。またヨハネが神のことばである主イエスは万物の創造にかかわられた(ヨハ1:1-3)と言うとき、「**主**のことばによって、天は造られた」という詩篇33篇6節に同じ真理があることを見ることができる(⇒ヘブ1:3, 10-12)。以上は、新約聖書が示している、キリストにかかわる旧約聖書のほんの一例に過ぎない。

(3) 贖い(人々を罪の結果から救い出し神との関係を回復する神の計画)という主題に焦点を合せる人物、事件、事柄　イスラエル民族がエジプトから解放されたことは旧約聖書全体を通して古い契約の中では最大の贖いの事件だったとされている。それはまたキリストと、キリストが新しい契約(「**旧契約と新契約**」の項p.2363)のもとで可能にされた罪からの救いを予表している。出エジプト記にはキリストとその働きを予表する型としてこのほかにモーセ、過越、紅海横断、マナ(神が奇蹟的に送られた食物)、岩からの水、幕屋とその備品、大祭司などが描かれている。

(4) 新契約(神の御子イエス・キリストのいのちと犠牲を通して人々に霊的救いを与え神との関係を回復する神の計画)のもとで神がキリストに従う人々になさることやその方法を予表する物語や事件　旧約聖書の多くの事件は実際にはイエス・キリストによって成就された。具体的には次のような例がある。

(a) アブラハムは神がサラに子ども(イサク)を与えられるまで25年近く忍耐して待たなければならなかった。アブラハムは自分の計画や行動によって神の約束を急がせることはできなかった。これは最も良いときに(ガラ4:4)神が御子を世界の救い主として送られたことによって成就した型である。人間は主イエスの来られるのを早めたり阻止したりすることができなかった。霊的救いは人間の努力によってではなく、神のみこころによってのみ与えられる(⇒ヨハ3:16)。

(b) 神がイスラエル人を恵みの力によってエジプトから救い出される前に、人々は敵から解放してくださいと必死になって神に叫ばなければならなかった(出2:23-24, 3:7)。これは神の霊的救いを受ける方法を預言している。人々は神の恵みによって罪から解放される前に、悔い改めて叫び、罪を赦して救ってく

ださいと願い求めなければならない(⇒使2:37-38, 16:29-33, 17:30-31)。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のである(ロマ10:13)。

(c) アラム人ナアマンがイスラエルの神にツァラアトを癒してもらいたいと願ったとき、ヨルダン川で7回からだを洗うように言われた。この奇妙な要求にナアマンは最初は怒ったけれども、癒されるためにはへりくだって神の指示に従わなければならなかった(Ⅱ列5:1-14)。この話は主イエスと新しい契約の両方を予表している。まず神の救いの恵みはイスラエル民族以外の人にも及ぶこと(⇒ルカ4:27, 使22:21, ロマ15:8-12)。次に霊的救いと神との新しい関係をいただくためには自分の誇りを捨ててへりくだり(⇒ヤコ4:10, Ⅰペテ5:6)、罪と霊的汚れからきよめてくださるように主イエスに頼らなければならないことを示している(⇒使22:16, Ⅰコリ6:11, テト3:5, Ⅰヨハ1:7, 9, 黙1:5)。

要約すると旧約聖書は神を敬う過去の人々の物語を単に模範として伝えているだけではない(⇒Ⅰコリ10:1-13, ヘブ11:, ヤコ5:16-18)。預言的約束、人物、事件、神によって目的をもって細部まで計画され設計された事物(幕屋とその備品など)をやがて起こること(キリストによって最終的に成就すること)の予告として記録しているのである。このような旧約聖書にあるキリストの例はみな、古い契約、新しい契約(キリストが来られる前とあとの両方, →「旧契約と新契約」の項 p.2363)それぞれのもとにいる神の民にとって深い霊的意味と意義を持つものとして啓示されたのである。